

女性の活躍応援団支援事業【神奈川県】

地域の実情と課題

神奈川県女性の就業率は、M字カーブの底の値と落差がともに全国ワースト1であるとともに、35歳から39歳の女性無業者の就労希望の割合は66.0%となっており、男女共同参画社会実現、少子高齢化社会対応のため、働き方改革等により、生涯にわたって働き続けられ、かつ、個性・能力に応じたキャリアアップの図れる職場環境づくりが急務である。

目的・目標

- 女性活躍推進がスピード感をもって拡大していくためには、トップの意識改革とリーダーシップが極めて効果的。また、意識改革とともに、より効果的な具体的対応策が広く採用されていくことも重要
- 「かながわ女性の活躍応援団」では、企業経営者等トップの意識改革に直接働きかける事業、効果的な具体的取組事例等を企業関係者に紹介する事業を進め、女性活躍推進の社会的ムーブメントの拡大を図る。
目標：啓発講座実施回数 全体15回（うち経済団体主催 6回）

事業の特徴

- 社会的影響力のある「かながわ女性の活躍応援団」のメンバー企業等や経済団体等との協働により、女性活躍推進の社会的ムーブメント拡大に向けた以下の事業を実施
 - ① ムーブメント拡大ミーティング
 - ② 女性の活躍応援団を活用した啓発講座の拡充
 - ③ 応援サポーター限定ステップアップセミナー・交流会（※）
 - ④ 取組紹介冊子・ホームページの作成※応援サポーター：啓発講座受講等をきっかけに「よし、やろう！」と女性活躍推進を思い立った企業が参加

連携団体

- かながわ女性の活躍応援団
構成メンバー：アイネット、アサヒビール、アツギ、麒麟ビール、京浜急行電鉄、JFEスチール、資生堂、第一生命保険、高島屋、ツクイ、飛島建設、日揮、日産自動車、日本発条、ファンケル、富士通、富士フィルムホールディングス、富士屋ホテル、横浜銀行、横浜国立大学の企業等トップ及び神奈川県知事
- 市町村
- 経済団体

事業の効果

冊子の配布や啓発講座（17回実施、参加者2,119人）を通じて中小企業のトップ等に意識変革をもたらしたことにより、女性活躍推進の社会的ムーブメントの拡大につながった。また、今年度初めて実施した応援サポーターを対象としたステップアップセミナー・交流会では、サポーター同士の活発な意見交換が行われ、相互刺激となるなど、サポーター登録を増やす上でのインセンティブとなることが確認できた。

今後の課題

平成27年度から年1回全団員が集まる全体会議を開催しているが、そうそうたる企業のトップが一堂に会するのは難しく、今後の実施方法等検討を要する。また、平成28年度からスタートした「応援サポーター」には、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定を義務付けているため、中小企業等が参加するにはハードルが高いのか、今一つ参加が伸びていない。今後、さらに女性活躍推進のメリットをアピールし、応援サポーターの数を増やす＝一般事業主行動計画の策定数を増やし、中小企業での女性活躍推進の社会的ムーブメント拡大を図る必要がある。

事業の概要

ムーブメント拡大ミーティングの開催

かながわ女性の活躍応援団ムーブメント拡大ミーティング

日 時:平成30年11月21日(水)

17:00~18:00

場 所:ロイヤルホール横浜2階
シャンボール(横浜市中区)

出席者:知事及び応援団員計12人
アドバイザー

(オブザーバー:応援サポーター
12人)
一般参加13人

内 容:女性活躍を応援する行動宣言バージョンアップ版の発表
アドバイザーによる講評 等



女性の活躍応援団を活用した 啓発講座の拡充

・実施回数全体17回(うち経済団体主催6回) ・参加者2,119人

応援サポーター限定ステップアップ セミナー・交流会の開催

応援サポーター限定ステップアップセミナー・交流会

日 時:平成31年2月28日(木) 15:00~18:00

場 所:ロイヤルホール横浜3階 セレナーデ(横浜市中区)

出席者:41人

内 容:

- ・アドバイザーメッセージ
- ・セミナー
「ダイバーシティ・マネジメントの壁となるアンコンシャス・バイアスを知る」



取組紹介冊子・ホームページの作成

- 取組紹介冊子
 - ・作成時期:平成31年1月
 - ・規格:A4判24頁4色刷り
 - ・作成部数:9,500部
- woman act.ホームページ
 - ・かながわ女性の活躍応援団団員、
応援サポーターの紹介
 - ・行動宣言
 - ・イベント
 - ・女性活躍のヒント

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0050/womanact/>



ライフキャリア教育かながわモデル発信事業【神奈川県】

地域の実情と課題

- 神奈川県は、労働・通勤時間が長く、サポート役として期待される祖父母世帯との同居率(三世帯同居率)も低いなど、結婚や出産に伴う女性の就業継続が難しい。
⇒本県のM字カーブは、底の値、深さとも全国最下位で、管理職に占める女性の割合も低い。
- 本県の若年層は、理想の家庭像として「男女共同参画」が望ましいものの、現実には「育児は女性が中心」と考えており、そうした意識には特に女性の保護者の考え方など、家庭環境の影響が強く現れていることが、意識調査の結果から伺える。

事業の特徴

1. 高校生・大学生用啓発冊子等の印刷配布
2. 高校生向け視聴覚教材の作成
3. 高校生向け出前講座の実施
⇒上記1、2及び過去に作成した教材を組み合わせ、各高校の状況を踏まえた出前講座をモデル的に実施し、その結果をまとめ県内高校へフィードバックし、更なる取組みの促進を図った。
4. 検討委員会において学識者より助言をいただきつつ上記事業を実施

事業の効果

- 高校生向け出前講座の受講者アンケートでは、講座が「参考になった」など、前向きな回答を得られた割合が86.1%
⇒昨年度の実績値(68.1%)や本事業の目標値(80%)を上回った。
- 県と連携しライフキャリア教育に取り組む大学数は、県内の全大学へ様々な働きかけを行い、47大学と、昨年度の実績値(41大学)より6大学増やすことができた。

目的・目標

- 社会に出る前の若年層をターゲットとし、早いうちから固定的性別役割分担意識にとらわれることなく、自身の個性と適性に応じた働き方・生き方を考える機会をつくることで、本県の女性の活躍を一層推進する。

【目標】

高校生向け出前講座の受講者アンケートにおいて「ライフキャリアを考えるヒントが得られた」等、前向きな回答を得られた割合
【目標】80% ⇒ 【実績】86.1%

連携団体

- ライフキャリア教育かながわモデル発信事業検討委員会
〔構成員〕大学関係者等学識者
…企画・内容等に対する意見聴取
- 県内高校・県内大学関係者
…企画・内容等に対する意見聴取、ライフキャリア教育の実践(授業等の実施)

今後の課題

- 県内大学には取組みの広がりが見られたため、今後は高校における取組みの一層の普及を図る。
- 早いうちから、固定的性別役割分担意識にとらわれることなく自身の個性や適性に応じた働き方・生き方を考え、女性の活躍を一層推進するため、文系・理系など、将来の就業につながる大きな選択の手前の段階にいる中学生に向けた新たな展開を検討・実施する。

事業の概要

高校生・大学生用啓発冊子等の印刷配布／高校生向け視聴覚教材の作成

○高校生、大学生向けに、仕事、結婚、育児などのライフイベントを具体的に考えてもらうきっかけをつくり、それらを意識した就職や人生設計につなげるため、ライフキャリアに関する知識、情報等を盛り込んだ啓発冊子等を作成し、配布した。

○高校生のディスカッションやグラフデータ、若手社会人のインタビューなどを交えつつ、「進学」や「就職」などの将来の選択肢や自分のライフキャリアを考えるきっかけを作る、高校生向け視聴覚教材を作成した。

Miraiの道をライフキャリアプランにしてみよう！

これまでの自分や今の自分を知りたい、冊子の内容を参考に、未来をイメージしながらライフキャリアプランニングシートに記入してみよう！

Step 1 これまでの自分について思い出してみよう		Step 2 今の自分について考えてみよう	
保育園・幼稚園・小学校時代	中学校時代	今の自分が興味を持っていること、力を入れていること	これからやってみたい
印象に残っている思い出や好きなこと			

Step 3 これからの自分をイメージしてみよう	20歳の自分	25歳の自分	30歳(30代)の自分	40歳(40代)の自分
なりたいイメージや大切にしたいこと				



バイヤーから管理職へ 仕事も育児も諦めない

専業主婦から管理職へ転職した
村田 祐希子さん。



この仕事に就くまで
専業主婦として、育児
に専念するつもりが、
転職するきっかけに
なったのは、夫の転勤
によるものでした。



高校生向け出前講座の実施

○高校において、アクティブ・ラーニングの手法を使い、専門的な知識・経験を持った講師による出前講座を、モデル的に実施した。

○出前講座では、啓発冊子や視聴覚教材を活用し、実施結果を好事例としてリーフレットにまとめ、高校における授業等の取組みを一層推進するため、県内全高校へ配布し、啓発を行った。



ライフキャリア教材の活用例をご紹介します

Case 1 教科内で「mirai book」を活用

ねらい
総合学習、家庭総合、現代社会、保健等の授業に、ライフキャリアの視点を取り入れることで、より自分らしい生き方や働き方を意識するための人生設計のポイントを学ぶ。

活用教材
● 啓発冊子「mirai book」
主に高校2年生に合わせた図解本。活用例や検証データを紹介する指導者用資料も一緒に配布しています。

手順
● mirai book (全高校・中等教育学校・特別支援学校に配布)の中で、活用ページを決める。
● mirai bookの冊数に不足があれば取り寄せるor冊子から該当ページを印刷。
● 指導者用資料を参考に、授業構成案(下記参照)を作る。
● 必要であれば、ワークシートなどを作る。

時間	議題	形式	目的・内容
10分	導入	講義	ライフキャリアの概観、各教科のどの単元に該当するか説明。(指導者用資料参照)

